## 卷頭官

## スクラムを組んで九州から 元気な業界を発信

九州グラビア協同組合 理事長母里丰太郎

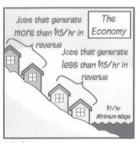


今年も残りわずかとなりました。令和4年を振り返りますと、オミクロ ン株の流行やウクライナ情勢に端を発した原油・物価の高騰、歴史的な円安 が社会に大きな影響を及ぼしました。

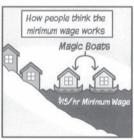
12月号巻頭言の御依頼をいただいた日、「10月の消費者物価指数が40年 ぶりの伸び」というニュースが目に入りました。マスコミは歴史的上昇と煽 っています。物価上昇の話が出ると、賃金上昇の話が出ます。「鶏が先か、 卵が先か」の議論です。

茂木幹事長は、物価の上昇を上回る賃上げを実現するためには国が従業員 のスキルアップを後押しする必要があるという認識を示しました。中小企業 の助け舟になるのでしょうか。即効性は期待できそうにありません。

賃金上昇について、マンガの例え話で説明させていただきます(簡単に 1ドル=100円としています)。



Minimum Wave



How the minimum wage actually works

rednanels com

1コマ目、時給1500円以上に対応した収益性のある会社と時給1500円に 満たない会社を、海沿いの斜面に表しています。海水面(最低賃金700円)が、 ひたひたと上がってきています。「経済の現状」です。

2コマ目、海水面が上昇し最低賃金1500円になったとき、魔法のボート が出現して斜面の下の方にいた会社を浮かべています。「最低賃金が上昇す ると(自動的に)皆の暮らしが楽になる」という楽観的な考えを多くの人が 持っています。

3コマ目、最低賃金が上昇すると実際には…、斜面の下の方の会社は水 没してしまいます。

最低賃金を上げるだけでは物事は解決しません、苦肉の策がスキルアップ 支援制度でしょうか。

企業にとっては、収益性・企業価値を高めていかなければ淘汰されるよう な状況です。

我々の業界においては、製品である軟包装の価値を広く、(売り手・買い手・ 世間に) 認識していただき、継続的な安定供給を確保するためにも適切な価 格転嫁の遂行が必須となっています。その上で、袋の機能・環境対応・印刷 技術等の更なる高付加価値化や工程改善・適正品質の確保(過剰品質の排除) 等、様々な取り組みがあります。

コロナ禍や不安定な国際情勢、多発する自然災害の中で、サプライチェー ンを支える軟包装の必要性・価値は更に増しています。組合の力を借りて、「軟 包装のキャッチコピー」によるアピール等を通じて、軟包装の価値について 広く認めてもらうことが増々大切になってきていると感じます。また、キャ ッチコピーを考えるプロセスを通じて、私たちの製品が世の中でどのような 役割を果たしているかを考える、良い機会となりました(高校生に考えても らうという取り組みも感心しました)。

先日、森 重降・日本ラグビーフットボール協会名誉会長のお話を聞く機 会がありました。

「15人のプレーヤーだけで戦っていた時代(1970年代)と異なり、リザ ーブ8人を加えた23人トータルのレベルアップを図っている。これが日本 代表を強くした」との言葉が印象に残りました。

製造現場においても、エース(機長)を育てることも大事ですが、全体の レベルアップや様々なポジションのバックアップ育成も大切だと、コロナ禍 においては特に痛感した次第です。

最後に遅ればせながらですが、本年5月の総会において九州グラビア協 同組合の理事長のバトンを受け継ぎました。中村政晃副理事長(前理事長) をはじめ、理事・監事・組合員・賛助会員・青年部も一緒にスクラムを組ん で、九州から元気な業界を発信していきます。来年もよろしくお願いいたし ます。

## 組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合 臨時理事会

# 軟包装を理解してもらうための ネーミング、キャッチコピーについて議論

関東グラビア協同組合は2022年10月28日(金)午後3時より臨時理事会を開催した。 当日は、組合事務所から田口 薫理事長(大日本パックェージ㈱)、安永研二副理事長 (東包印刷(株))、諸石武士理事(日本パッケージング(株))、袖山髙明専務理事、村田英雄 顧問の5名が、吉原宗彦副理事長(東京加工紙㈱)、川田雄治理事(トーホー加工㈱)、 村野 剛理事(信和産業(株)) の3名が Zoom にて参加した。

冒頭、田口理事長は、「原材料価格が上がり、円 安が進行し、我々にとっては厳しい状況が続いて いる。来年度の活動計画も含め活発な議論をお願 いしたい」との挨拶があり、次のような議題を審 議した。

## 1. 上半期決算

袖山専務理事より、ほぼ前年通りとの報告があ った。

## 2. 新年会開催について

2023年1月13日(金)、ホテルニューオータニ 東京にて開催を予定している「全グラ・関グラ・ 関プラ3団体合同賀詞交歓会 | について、参加者 からは次のような意見があった。コロナ禍以前は、 例年220名規模で開催していた。

- 中止、コロナの感染がどうなっているか分から ないので。また、ホテルのキャンセル費を含め 悩むのであれば。
- コロナおよびインフルエンザを含め不安定な中 で開催するのはいかがなものか。
- 3年で、コロナの感染状況・対策を学んできた。 ビュッフェ形式になると思うが、お客様も、100 名規模なら、その3倍の平米数で開催するという

- ことも聞いている。こんな状況なので、皆さん、 どうした状況にあるのか情報交換する意義はある。
- 全国の理事会が対面開催され、休憩時間や帰り に地方の理事と情報交換ができ有意義であった。 今年日印産連さんも新年会をやっているが、 我々の業界もウィズコロナということで上手く 付き合っていける足がかりになればと思う。
- 会だからみんなが会うことが大事、元気が出る。

#### 3. 全グラ定例理事会について

「地方の単組理事は既に出席を予定している」 「着座での会食後、理事会をするのは良いのでは。 アルコールが出ると大変だが」という意見を受け、 11月10日(木)に開催を予定している定例理事会は、 第一ホテル両国でリアル開催することとなった。

\*定例理事会の報告はGPJAPAN1月号に掲載します。

## 4. 外国人技能実習評価試験監督者募集結果につ いて

「第2回監督者講習会(Web 開催)」が10月21 日(金)に開催され、13名が受講した。実技をして いる場所に見学に行き、模擬採点をしていただく ことで資格を取れる。

既に有資格者は13名いるので、これに今回の13

名が加わると26名になる。

監督者を派遣する際に、自宅を出て帰るまで、 交通事故や病気になったりすることを考え、保険 に加入した。11月から適用される。

## 5. 第21回印刷産業環境優良工場表彰応募につ いて

当日はまだ詳細が発表されていなかったが、第 21回印刷産業環境優良工場表彰についての紹介が あった。後日、応募期間が2022年11月18日~ 2023年1月31日までとの発表があった。

#### 6. グラビア印刷技術研究会の第13回研究例会

11月9日(水)午後1時半より開催される、(一 社)日本印刷学会 技術委員会 グラビア印刷技術 研究会の第13回例会「包装業界のDX」について、 積極的な参加要請があった。

\*詳細報告はGPJAPAN1月号に掲載します。

### 7. GP 環境大賞等表彰式

10月19日(水) に、東京・DNP五反田ビル・ホ ールにおいて「GP(グリーンプリンティング)環 境大賞等表彰式」が執り行われ、終了後には、 GPPR 大使を務める小川薫堂氏と、写真家のハー ビー・山口氏が「印刷と私」をテーマに、トーク ショーが行われた。その報告があった。詳細は今 月号11頁参照。

### 8. IGAS2022の展示企画

11月24日(木)~28日(月) に東京ビッグサイト で開催されるIGAS (International Graphic Arts Show) 2022において、東6ホールに、「JFPI+ 10団体紹介ブース | 「10団体フリースペース | が 設けられ、全グラ展示ブースが設けられるので、 その説明と、期間中、ブースを訪れてほしいとの PR があった。

#### 9. 第1回労働安全衛生部会

10月21日(金) に開催された (一社)日本印刷産 業連合会の「第1回労働安全衛生部会」について 報告があった。

今年5月31日(火)に公布された労働安全衛生法 関係政省令の改正により、事業場においては、これ までの特別規則を主とした化学物質管理、すなわ ち「法令準拠型」から「自律的な管理」への転換 が求められるようになる。具体的には、化学物質の 危険性・有害性に関する情報伝達が強化され、今 後数年をかけて、ラベル・SDS の交付対象物質が 674物質から約2900物質に増える見込み。事業者 はリスクアセスメントに基づいて対策を講じる必要 がある。また、リスクアセスメントが義務付けられ ている化学物質の製造、取り扱い又譲渡提供を行 う事業場ごとにこれらを実行するために、事業場内 の体制整備の1つとして「化学物質管理者」の選任 が義務化される。細目について不明な点が多いの で、今後も引き続きウォッチしていく必要がある。

#### 10. 軟包装のキャッチコピー

一般の人に軟包装を理解していただくための「軟 包装のネーミング、キャッチコピー等」について、 安永副理事長から叩き台の提案があり、議論した。

#### 11. その他

・北海道グラビア印刷協組/日本POF工業組合 北海道地域会/北海道ラミネート製品懇話会・合 同セミナー(2022年10月5日開催)報告



## 組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

# 令和4年度忘年会、27名が参加し開催

関西グラビア協同組合青年部(木田青年部部長、昭和グラビア印刷㈱)は、2022年 11月25日(金)午後6時から、中之島フェスティバルタワー最上階にある「ラ・フェ ットひらまつ | において、27名参加のもと令和4年度青年部忘年会を開催しました。



開宴の挨拶をする 堀川青年部副部長

事務局の司会によって 進行し、開宴に際し組織 交流委員長である堀川青 年部副部長が、年末に向 け多忙な中を集まってい ただけたことへの謝意と ともに、1982年に西麻布 で「ひらまつ亭」という

レストランを夫婦で開店してから今年40周年を迎 える「ラ・フェットひらまつ」の創業から現在に至 る歴史を紹介し、伝統的なフランス料理の技法を ベースに、長年にわたり磨き上げられたフランス料 理とイタリア料理の感性と技術が融合された料理 を楽しみながら、残り1カ月となった2022年を振

り返りつつ、情報交換と年末に向かって明日への活 力としていただけたらと思いますと挨拶しました。

その後、来賓である竹下理事長の乾杯の音頭で 忘年会が始まり、情報交換を行いました。最後は木 田青年部部長の閉宴挨拶と一本締めで午後8時30 分、青年部今年最後の行事を無事に終えました。



竹下理事長の乾杯の音頭で 忘年会がスタート



最後は木田青年部部長の 挨拶と一本締め



会場の様子

## Snapshot











### **Snapshot**









# Information

## JPI、2月に「2022年度第13回食品包装コース (全4日)」を オンライン開催

日本包装技術協会(JPI)は、2023年2月7日(火)、14日(火)、15日(水)、20日(月)に、「2022年度第13回食品包装コース」をZoomによるオンライン開催する。定員は30名(先着順)。受講料は、JPI会員4万4000円、一

般6万6000円(税込、テキスト代込)。講師は、加藤包装技術事務所の加藤武男氏と、トッパン・ヒューマン・インフォメーション・サービス(株)の坂巻千尋氏。申込は、JPIホームページ(https://www.jpi.or.jp/)より申し込む。

## 2022年GP環境大當等表彰式

## 小山薫堂氏とハービー・山口氏がトークショーを開催

(一社)日本印刷産業連合会(日印産連)は、2022年10月19日(水)に、東京・DNP 五反田ビル・ホールにおいて「GP (グリーンプリンティング) 環境大賞等表彰式 | を執り行い、GPIAPAN11月号でも既報の通り、2022年のGP環境大賞・準大賞、 GPマーク普及大賞・準大賞、GP 資機材環境大賞を受賞した36企業・団体に表彰状 が手渡された。表彰式の終了後には、GPPR大使を務める小山薫堂氏と、写真家の ハービー・山口氏が「印刷と私」をテーマに、トークショーが行われた。ここでは その模様を紹介する。

## 魂を込めたコラボレーションが良い印刷に



ハービー・山口氏

冒頭、印刷にまつわるエピソードとして、ハー ビー・山口氏は、「最初にロンドンの写真集を作っ たのが1985年、35歳のとき。大日本印刷で印刷 してくださいました。私の写真の内容と、印刷の クオリティの高さが絡み合って、とても良い写真 集ができました。写真家にとって最終形態である 写真集が印刷されて残るというのは心強い限りで すね」と述べた。

現在、写真は9割デジタルだというハービー氏

だが、今まで撮影したものの半分以上はネガで、 自分で暗室も持っているという。「銀塩プリントや インクジェット出力などがありますが、印刷はそ れらとはまた違う工程を経て書籍になります。印 刷がオリジナルを超えるようなクオリティ作って くれたら素晴らしいわけです。印刷のプリンティ ングディレクターという立場の方がいまして、そ の方がプリントに関わると全然変わってきます。 写真家は撮るときに魂を入れますが、印刷のとき にもプリンティングディレクターや印刷機を回す 方々の魂が入ることで、それぞれがコラボレーシ ョンして、こんなに良い印刷に什上がりましたと なればいいですよね」。

## 妥協しないで撮るのが人生

1970~80年代にロンドンで生活していたハー ビー氏。「10年近く住んでいましたが、ずっと貧 乏生活。同じようなイギリスの若者たちとワンフ ロアで同居している時期があって、その中にいた ジョージという青年が、のちのカルチャー・クラ ブのボーイ・ジョージ。そのときはまだ歌ってい なかったですね」と振り返る。その後、日本での ツアーに同行し、撮影を行っている。

他にもハービー氏が撮影した被写体のエピソー ドには、当時パパラッチに囲まれていたが誰だか 分からずに撮影していた結婚前のダイアナ妃や、 地下鉄で偶然出会ったザ・クラッシュのジョー・ ストラマー、たまたま目の前でエンジンが止まっ て車から降りてきたアイルトン・セナといった錚々 たる名が飛び出る。

「地下鉄で出会ったジョーさんは、プライベート だから絶対撮らせてくれないだろうと思いました が、声をかけてみたら『撮っていいよ』と言われ、 一緒に電車に乗って撮らせてもらいました。そし て、降り際に私に向かって、『撮りたいものはみん な撮りなさい。それがパンクの精神だから。妥協 しないで撮るのが人生、パンクだよと』言ってく れました」。

## 被写体の明日の幸せを祈ってシャッターを 切る

トークショーの中では、ゲイリー・ムーアの曲 を BGM にハービー氏が撮影したコロナ禍の人々 のスナップもスライドショーで披露された。

自身を「99%、人様にカメラを向けて撮ってい るカメラマン上だと述べるハービー氏だが、その 人柄故か、撮影時にトラブルは全くないという。 これについては「人物写真を撮る最高のテクニッ クは、被写体として捉えた方の明日の幸せを祈っ てシャッターを切るという精神。そうするとまず トラブルはありません。これが相手の警戒心を解 くのではないでしょうか」と語った。

## "人間力"を鍛えてシャッターチャンスを 捉える

小山氏もハービー氏のような写真を撮るために 常にカメラを持ち歩くというが、「こういう場面に は本当に出会えないです。ハービーさんにどうす



小山董堂氏

ればいいか聞いたら、『"人間力"を鍛えればいい』 と言われました」と述べた。

続けて、ハービー氏は、「"人間力"っていうの は、大谷翔平選手がグラウンドでごみを拾ったり しますが、人様が少しでも救われる行為を自分な りのスタンスで行うことが、良い被写体を呼び込 んでくれているのかな。科学では解明できないけ ど、良い写真を撮ろうと思う気持ちに比例して、 シャッターチャンスはあります。良い写真を撮る んだという情熱があればあるほど巡り合う」と説 明した。

こうしたハービー氏の"人間力"が発揮された エピソードとして2つの出会いが紹介された。1 つは、昨年12月に撮影したタクシーの運転手。タ クシーの中で話を聞くと、実は35年間パンクバン ドのドラマーとしても活動していて、2022年1月 3日に武道館をブッキングしていることが判明。 「ライブハウスはいっぱいにできるけど、さすがに 武道館を満杯にするのは難しい…」という運転手 の話をきっかけに、ハービー氏がラジオ番組など でこのエピソードを紹介したところ、当日武道館 は満杯になった。

2つ目は、新幹線でたまたま撮影させてもらっ た前の席の女性。後で調べてみると、ショパン国 際ピアノコンクールにも出場していたピアニスト

の五十嵐董子氏だったという。五十嵐氏がTwitter でハービー氏との新幹線でのやり取りと撮影して もらった写真をアップすると、イイねが7700件、 2カ月後にはそのツイートを見た人が120万人に も、トったという。

## 世の中の一助になっているという思いが 1つのエネルギーに

ここまで、ハービー氏の魅力的なエピソードで 少し印刷から話題が外れていたが、最後になんと か印刷の方向に戻そうと、「印刷物を書いているラ イターは、出来上がったものを製本したときに、 これが伝わったらいいなと思って書いています。 こういう発想をすることで作品は変わりますかし と小山氏。ハービー氏は、「変わると思います。一 人一人の魂を込める、自分が世の中の一助になっ



ている、そういうことが1つのエネルギーになっ ていると思います。日常のルーティンではなく、 本が出来て、それが幾万の人の心を豊かにする一 助になっているんだという意義を理解することだし とし、心はAIにとって代われない、ロボットにとっ て代われないものを作ることが必要だとまとめた。

# Information

## 内閣府食品安全委員会、令和5年度食品安全モニターを募集中

内閣府食品安全委員会は、2023年1月25日 (水)午後5時まで、食品安全モニターを募集し ている。応募資格等は以下の通り。

**応募資格**:以下のア〜工全てに該当すること。 ア 日本国内に居住されている満18歳(2023 年4月1日時点)以上の人

- イ 自分の電子メールアドレス、インターネッ ト接続されたパソコンを持っている人(パ ソコン操作は必須)
- ウ 食品安全委員会が行うリスク評価を理解す るための知識を有していること。具体的に は、次の条件のいずれかを満たしている人
  - [1]大学等で食品に関連する学科等(医学、 **歯学、薬学、獣医学、畜産学、水産学、** 農芸化学、食品工学、家政学、栄養学 等)に在籍している方、または卒業もし くは修了した人
  - [2]食品に関連する資格(管理栄養士、栄養 士、調理師、専門調理師、製菓衛生師又

は食品衛生管理者、その他事務局長が適 当と認めるもの)を保有する人

- [3]食品安全に関する業務に従事している方 もしくは従事していた人
- [4]過去に常勤公務員として食品の安全に関 する行政に従事していた人
- エ 2023年4月1日時点で、国会議員、地方公 共団体の議会の議員、食品の安全に関する 行政に従事している常勤の国家公務員・地 方公務員のいずれにも該当しない人

**応募締切**:2023年1月25日(水) 17時

募集人数:130名程度

期:1年間(2023年4月1日~24年3月31日)。

活動状況等に応じて、延長が認めら れる (延長は1年毎、最長5年間)

応募方法:食品安全委員会 HP の応募フォーム

(https://form.cao.go.jp/shokuhin/ opinion-1369.html) より応募

## 第51回GPT場交流会を開催

## 印刷産業環境優良工場表彰受賞工場が講演

(一社)日本印刷産業連合会は、2022年10月27日(木)午後3時~5時30分まで、「第 51回 GP 工場交流会 | を Zoom で開催した。新 GP 認定工場の紹介に加え、「第20回 印刷産業環境優良工場表彰 | で経済産業大臣賞を受賞した㈱太陽堂印刷所、日本印 刷産業連合会会長賞(小規模事業所部門)を受賞した街中正紙工による環境配慮活 動について講演が行われた。また、参加者の交流を深めるために、今回初めての試 みとして、Zoom のブレイクアウトルームを利用した少人数のグループディスカッ ションも行われた。ここでは、印刷産業環境優良工場表彰受賞工場2社による講演 を紹介する。

## 株太陽堂印刷所 オフセット課 井上 勝課長

## フォーム印刷が主流の印刷会社

太陽堂印刷所は従業員19名の印刷会社。第20 回印刷産業環境優良工場表彰において、当社の第 一工場が経済産業大臣賞を受賞した。第一工場と 第二工場は千葉印刷団地(千葉市)にあり、当社 の他に印刷会社や用紙販売会社、製本会社が入っ ている。業務内容は、6割がフォーム印刷、3割 が枚葉印刷、その他デジタル1割程度、その他、 DTP、データ入力サービス、ユニバーサルデザイ ンなども手がける。

### 第一工場、本社・営業本部が GP 認定

環境活動は2003年のISO14001取得に始まり、 ISO9001、プライバシーマーク、GP 認定工場、 ISMS 等を取得。2006年に環境優良工場表彰に初 めて応募して推奨賞、13年に会長賞、17年経済産 業省商務情報政策局長賞、22年に経済産業大臣賞 と確実にステップアップしてきた。日印産連のGP 認定制度は、06年に第一工場、22年に本社・営業 本部が取得し、資材によってはスリースターが付 けられる状態になっている。全日本印刷工業組合 連合会の CSR (企業の社会的責任) 認定制度につ いても13年にワンスター、17年にツースター、21 年にスリースターを取得している。

ISO認証取得のための専門部門はなく、各種認 証取得ごとに責任者がいる。みんな仕事を抱えな がら、監査があれば業務の間に資料作成を行って いる。一般的には会社全体でISOの認証を受ける と思うが、当社の認証は各部門で独自に目的・目 標を掲げて取り組んでおり、外部監査のときも各 部門個別に監査を受ける。各部門には管理責任者 に相当する部門長が選任され、部門長が統括管理 している。各種の内部監査は、外部のISOの講習 を順次受け、全社員が内部監査をできる体制にな っている。

## GP マーク標示印刷物の営業目標設定

GP マーク標示印刷物は、以前は各営業担当者 に任せており、受注は成り行きであった。GPマ 一クを付けられる資材をよく把握していないとい う実情もあり、グリーン基準ガイドラインを見直 し、勉強会等を実施して営業目標を挙げた。その



太陽堂印刷所 第一工場

結果、増加に転じたが、官公庁主体の仕事が多い 関係上、季節によって大きな差が出ている。また、 帳票関係の印刷物が多く、GPマークを付ける印刷 物も帳票関係が主体となっている。GPマーク普 及大賞は、2019~22年度まで4年連続で受賞して いるが、最近は頭打ち状態なので今後も気を引き 締めて減少しないように努めていきたい。

### 徹底した清掃活動

長年の社風になっているのが清掃活動。工場内 の見取り図に担当者の名前を書き込んで、朝の15 分間、責任をもって徹底的に掃除する。

機械に関しても、7月と12月の年2回の清掃週 間に3日ほどかけて、可能な限り分解してすみず みまで、清掃している。その他にも全体で工場内 外の大清掃を行っている。

### コントロールバンディングでリスクアセスメント

リスクアセスメントについては、まず工場内で 使用している化学物質の洗い出しから始めた。以 前から有害性の低い洗浄液への移行や手順書等有 機則に沿った取り組みをしてきたが、リスクアセ

スメントを正式に行うにあたり、厚生労働省のコ ントロールバンディング(化学物質の健康被害リ スクについて客観的に評価する手法)を使用して いる。サイトに様式があるので、自社が使用して いる化学物質の SDS (安全データシート) から得 た情報を入力して案内通りに進むだけで結果が出 てくる。それに沿った対策シートも得られるので 取り組みとしては簡単。ただ、対策シートには少々 厳しい内容で書かれているので、それをすべて実 行するのは大変だが、そういったことを注意しな がら行っていけばよいということが分かるので、 大変参考になると思う。

### 化学物質に関する教育訓練実施

従業員の健康被害を守るために、有害物質に関 する資材購入手順書、危険物管理手順書、危険物 漏洩緊急事態対応手順書、作業管理手順書、ウエ ス容器の管理手順など様々な手順書を整備して教 育している。それに伴い、使用している従業員に 教育訓練を実施して、年2回の有機溶剤の健康診 断を実施。また、以前使用していたということで 特化則の健康診断も合わせて実施している。

### VOC警報機を設置

有機則に準じた対応、保護具使用、廃ウエス管 理などを実施している。工場内は洗浄液の臭気を ほとんど感じないような環境になっている。天井 が高いこともあるが、中災防の無料診断の際も洗 浄液の臭気がほとんどしないとおほめの言葉をい ただいた。

保護具の使用も欠かせないが、マスクに使用す るフィルターは活性炭なので使用期限がある。使 用するとき以外はプラスチック袋に入れて保管し、 必ず1カ月前にフィルター交換を行っている。そ の他、VOC警報器を5~6台設置している。

## 日印産連の環境関連法規集を参考に

今年更新された、日印産連が発行している環境 関連法規集を主に参考にして取り組んでいる。環 境法規制登録はISO に必要な書類なので環境法規 制登録後に自社の関係する法規制をまとめている。 できるだけ漏れがないように管理しているが、抜 けているところを監査のときに指摘されたりする ので、日々目を光らせておく必要があると感じる。 前年度と変わっている点が一目瞭然になるように している。来年4月から印刷業も義務化で、各現 場に職長を設けなくてはいけないということで、 今対応中。

### フロン抑制法の対応

エアコンの保守点検は法令上、当然であるが、 印刷機械の湿し水装置等もフロンを使用している ので、台帳を作成して記録を整備している。 7.5kW 出力だと業者の点検が必要だが、当社は それ以下なので簡易点検で行っている。

### リサイクル率99.9%、有価物化も推進

当社が買い取ってもらった有価物の金額は昨年 度で116万円。リサイクル率は、以前は96~97% で推移していたが、2013年より分別や処理業者を 見直して、今年度は99.9%になった。リサイクル 率を上げるには、面倒でも徹底して分別するしか道 はない。当社の廃棄物は、表記をしっかり行って 分別の手順書を作成して分かるようにしている。

ただリサイクルするだけではなく、有価物化を 進めるには処理業者の選定が重要になる。当社は 以前から出入りしているリサイクル業者に協力を 願って有価物で処理してもらえるようになった。 また、手間はかかるが、ブランケットのアルミ版 は完全に分別している。金属有価物として処理し たり、最近では、これまで焼却処分だったインキ 缶も中のインキをきれいに取り除いて有価物化し ている。2010年から比べると21年はほとんどの ものが有価物化になっている。リサイクルできて いない0.1%は、印刷団地内で焼却処分に出して いるお茶殻などの一般関連ごみになる。

#### 社内の CSR 活動

2013年度に全日本印刷工業組合連合会主催の CSR 認証制度に応募してワンスターを取得、21 年度に最上位のスリースターに昇格できた。取得 にあたっては総務部が主体となって取り組み、項 目チェックリストや CSR マニュアルも作成して、 教育訓練や推進改善を行って、その基準の達成度 を認知してもらった。

当社の CSR 活動の一環について、社員同士のコ ミュニケーションを活性化しようと2021年度より 試験的に実施しているのが、日常の些細な事柄で も感謝の気持ちを伝える取り組みだ。コミュニケー ションを図るのに好評で、今年度も実施している。

2~4月は挨拶月間で、この期間はとにかく「大 きな声で元気よく」をモットーに実施している。 繁忙期で労働災害が比較的起きやすい5~7月は、 労働災害防止運動として過去事例や労働災害アセ スメント等を実施して労働災害防止に努めている。

今年度は新入社員による労働災害防止のための川 柳を考えてもらい掲示した。新入社員ならではの 発想の川柳で、好評だった。

また、ハラスメント防止のために、全社員で外 部機関での研修を実施した。現在は些細なことで もハラスメントと言われる。ハラスメントの線引 きが難しく、理解されないのが現実だと思うので、 良い機会になると考える。その他、地域への美化 運動活動や寄付活動、計員の AED (自動体外式除 細動器)研修等、様々な活動を CSR の一環とし て行っている。

## 補助金活用で老朽化設備を入れ替え

2018年度に老朽化のためにいくつかの設備入れ 替えを行ったが、なるべくコストをかけずに行い たいので、補助金を有効活用した。補助金利用と なると、細かな計算と膨大な資料を作成する必要 があり、とても負担が掛かる。最初に利用した千 葉市の省エネ補助金は、資料的にそれほど難しい ものではなかったので、自分で行ったが、何度か 手直しを指摘されて苦労した。また、環境共創イ ニシアチブの補助金は国の事業で、資料作成は素 人には無理があるということで、補助金の申請代 行業者を選定して取り組み、利用できた。

国の補助金を利用するにあたっては、やはり成 果が求められる。申請書類上、約17%の電力使用 量を削減しないといけないので、いくら省エネタ イプのエアコンを入れたとしても全体的な削減は 想像以上に難しい。当社はEMS(エネルギーマネ ジメントシステム)管理会社と契約を結び、取り 組んでいる。現在まで順調に推移しているが、こ れからの時期は暖房で電力を消費するので、注意 して管理していく必要がある。

### 社員教育等を通じて SDGs を推進

その他環境配慮活動については、第一工場では、

晴天の日は照明器具を使わなくても大丈夫なほど の光源が確保できるトップライトの採用や、工場 敷地内の緑化20%以上に取り組む。また、第一丁 場は西側に市営団地があるので、エアコン室外機 を設置する関係上、騒音や熱害が団地に影響を与 えないよう壁を設けている。おかげ様で住民から の苦情はない。

千葉県内企業等における SDGs 推進の機運を醸 成するとともに、具体的な取り組みを後押しする ために県が創設した「ちばSDGsパートナー登録 制度しや、千葉県環境生活部循環型社会推進課温暖 化対策推進班が実施する「CO2CO2(コツコツ) スマート宣言事業所 | に登録している。GP 認定 工場では自ずと SDGs に関与しているが、内容を 知り、理解することが必要だと感じているので、社 員教育等を通じて社内でもSDGsを推進している。

## リサイクルの質も見直し

現在、リサイクル率99.9%で頭打ち状態である が、ほとんどがサーマルリサイクルのため、今後 はマテリアルリサイクル等、リサイクルの質の見 直しをしていく必要がある。

リサイクルしてもどうしても廃棄物は出るので、 どのように減らしていくかが課題であるが、その 一環として当社では刷版の無処理版への切り替え を行っている。廃液を出さない、さらに現像工程 も短縮できるので時間節約にもなっている。今年 度中には100%切り替えを目指している。

SDGs の取り組みは、GP 活動を通じて行って いる状態であるが、具体的に取り組んでいる同業 者を見習い、勉強会等を通じてさらに深く展開し ていく必要がある。

これまでの取り組みは、何ができて、できない のか、できないことをできるようにするにはどう したらいいのかを常に考え、実行してきた結果だ と感じている。ただ、一番難しいのがモチベーシ

ョンの維持である。取り組みのマンネリ化は避け、 日々邁進していかないといけないと感じているが、 今後、次の世代にどう引き継いでいくかも大きな 課題になっている。これからも手を抜くことなく、 環境問題に取り組んでいきたい。

## (有)中正紙工 中村勝彦代表取締役社長

## カレンダーなどを手掛ける製本会社

当社の創業は1980年7月、今年42期を迎える。 従業員10名で、創業当初からカレンダー製本やリ ング製本を得意として事業を展開してきた。新し い技術や製品の開発にも積極的に取り組んでいる。 2007年にGP認定、同年8月にはFSC認証を取得 している。東京都江東区に業務拡大のための引っ 越しを機に、環境問題への意識をより高めて、様々 な環境負荷低減のための取り組みを進めてきた。

製品開発としては、金属製のダブルリングを紙 で表現しようと、2005年に「ペーパーリング」を 開発した。10年には商業印刷物の中綴じに使う金 属の部分を紙にした「ペーパーホチキス」を製品 化した。金属を紙にすることで、リサイクル性を 高め、環境配慮を目指すと同時に、エンドユーザ 一が安心で安全に使えるものをお手元に届けよう と開発した。

## 社内の環境配慮

環境については、計内環境、計外環境(近隣)、 自然環境の3つに分けて考えている。

社内の環境配慮では、新拠点に移った際にスタ ッフが会社にいる間は安心して快適に働ける設備 を整えようと考えた。パートも含む全社員分の非 常時の持ち出しバッグは、東日本大震災のときの 教訓で、帰宅困難のことも考えて設備した。非常 食、飲料水などの十分な量を備蓄。マスクや耳栓 も自由に使えるように常備しており、家庭でも使 える分を用意している。AEDも設置して、いざと いうときに使えるように講習会も行っている。

また、スタッフ同士のコミュニケーションも大 事になってくるので、レクリエーション設備とし て卓球台を設置し、不定期に卓球大会を開いて親 睦を深めている。プライベートの充実が良い仕事 につながると考えているので、家族や親族、パー トナーとの関係を仕事以上に大切なことだと考え てもらいたいと話をしている。何かあったときは そちらを優先しやすい環境、風潮を作っている。



中正紙工

そして、手を抜かず楽をするということで、で きるだけ省力化を図って、プラスチックパレット を導入している。木くずが出たり、釘が飛び出た りすることもなく、虫がついてくることもほとん どないので、製品の品質向上にも役立っている。

## 社外 (近隣) 環境

社外環境は近隣への環境配慮になる。当社は準 工業地帯にあって、騒音規制法では第3種区域に 該当しており、適用法令に沿った事業を展開して いる。アイドリングストップの周知はスタッフだ けではなく、荷物を持ってきてくれるドライバー さんにも配慮するようお願いしている。また、場 内には最大で高さ7mの壁があり、外に漏れる音 を極力減らそうと全面に防音材を貼り付けた。

地域貢献の一環として、AED設置、こども110 番登録、裁ち落としなどを再利用したノートやメ モを配布なども実施している。2020年にはコロナ で学校や幼稚園、保育園が閉鎖されて、家庭学習 の機会が随分増えたことがあった。そのときに、 江東区内のキッズクラブにペーパーリングで作っ たノートやメモを配布して、親御さんとお子さん のコミュニケーションのツールとして使ってもら えればと提供した。

#### 白然環境

自然環境については、資源の分別をできるだけ 細かくしている。また引っ越しを機に、社内のす べての電灯の LED 化や電力コントロールできる装 置を取り付けてピークを抑えている。

印刷産業環境優良工場表彰会長賞をいただくに あたっては、課題も見つかった。印刷会社と製本 会社とリサイクル業者の間での情報共有がリサイ クル率を高めていく上で、大事なことだと考える。 当社は、基本的には印刷物を印刷会社さんからお 預かりして、それを加工して納める仕事が主だが、

印刷会社から見積りや発注書をいただく際に、印 刷物の PP 貼りなどの表面加工の指示が入ってい ないことが多々ある。卓上カレンダーのスタンド にPP加工される仕様の場合、PPだと貼る際に糊 のつきが悪く剥がれてしまうとか、色の濃い印刷 物の上に PP 貼りを行うとスクラッチ痕が目立っ てテカってしまうなど、後加工がしにくい場合が あるので、こうした加工は気にかけている。また、 リサイクル原料として使う裁ち落としの中に PP 加工されたものが混ざってしまうと、場合によっ ては産廃扱いになってしまうこともあるので、事 前に表面加工があることが分かっていれば分別が でき、リサイクル率を高めることができると考え ている。

## コストや使用環境に合わせたエコ+安心安全

当社でできるエコな製本を提案してくれと言わ れることが多い。

「エコ」は自然環境に配慮した生活スタイルや考 え方、ものづくりで利他的な考え方を表現する和 製英語だと言われているが、使い勝手を追求した り、廃棄が楽だったりと便利さを追求するあまり、 利己主義的な「エゴ」優先になっている気がする。

当社がエコを提案する際には、リサイクル適性 の高いエコなのか、CO。削減に貢献するエコなの か、立ち位置によって随分変わってくると考えて いる。コストや使用環境に合わせたエコ+安心安 全というプラスアルファをキーワードにして提案 している。

環境配慮に取り組むのは難しいところがある。 面倒だと思うことも多々ある。実際、指摘をいた だき、確かにまだ取り組めることがあると背筋が 伸びた気がした。